

日本土壌微生物学会 2013年度 定期総会資料

2013年6月21日(金)11:40~12:40(予定)

於 東京農工大学 農学部講堂

総会次第

1. 開会の辞
2. 会長挨拶
3. 議長選出
4. 2012年度事業報告
 - 1) 大会報告
 - 2) 会誌出版・編集報告
 - 3) 幹事会報告
 - 4) 会計関係報告
 - 5) その他
5. 2013年度事業計画
 - 1) 事業計画案
 - 2) 予算案
6. その他
7. 議長解任
8. ポスター賞受賞者発表
9. 閉会の辞

2012 年度事業報告

1. 大会報告

1-1 2012 年度神戸大会

2012 年 6 月 23 日(土)から 24 日(日)にかけて、神戸大学で開催した 2012 年度大会(通算第 58 回)の参加者は、174 名(うち会員 154 名、非会員 20 名)。学会シンポジウムは「社会に役立つ土壌微生物」をテーマに、特別講演「作物生産を支える新しい窒素栄養の形態-PEON の発見と今後の課題-」、招待講演 3 題、そして一般講演は口頭発表 16 題、ポスター発表 50 題により実施した。最優秀ポスター賞は 2 題、伊藤英臣・石井聡・白鳥豊・大島健志郎・大塚重人・服部正平・妹尾啓史「メタゲノム解析から見えた土壌圏の一酸化二窒素還元に関与する新たな微生物群集構造」と、柏毅・稲見圭悟・藤永真史・小木曾秀紀・寺岡徹・有江力「遺伝子破壊によるキャベツ萎黄病菌 SIX4 の機能解析」が、また優秀ポスター賞は 1 題、北川博子・井上加奈子・下井沙紀・池田健一・朴杓允「ゼラチナーゼ活性を有する土壌微生物を利用した植物病害防除法の開発」が選ばれた。

1-2 出前授業

2012 年 7 月 16 日(月)、神戸市立鶴甲小学校の 5,6 年生 23 名が参加して、神戸大学において「土の中の微生物をのぞいてみよう」をテーマに開催した。乾燥した休眠クマムシの復活や微生物の電子顕微鏡観察を行った。

2. 会誌出版・編集報告

土と微生物 投稿状況 (2013 年 5 月 13 日)

	原著論文			総説・解説・シンポジウム	
	受付	受理	審査中	受付	受理
2013	4	1	3	4	4
2012	5	2	2	8	7
2011	6	6	0	7	7

3. 幹事会報告

3-1 2012 年度第 2 回幹事会

日時:2012 年 10 月 28 日(日)

場所:キャンパス・イノベーションセンター東京

(報告事項)

- ①総務担当幹事が 2012 年 10 月現在の会員状況について報告した。
- ②会計担当幹事が 2012 年度予算執行状況について報告した。
- ③編集委員長が土と微生物誌の編集状況について報告した。
- ④日本農学賞候補の推薦について、日本農学賞候補推薦委員会で検討した結果、候補者を推薦しないこととした。
- ⑤日本農学会運営委員が日本農学会運営委員会について報告した。
- ⑥日本学術会議等連絡委員が日本学術会議関連について報告した。
- ⑦会長が川口会員の日本農学進歩賞受賞について報告した。
- ⑧神戸大会実行委員長が神戸大会の決算について報告した。
- ⑨企画委員が学会活動活性化に関する検討結果について報告した。

(審議事項)

- ①有江大会実行委員長から提案された 2013 年度大会の開催要領案について、審議の結果了承した。
- ②総務担当幹事から提案された 2013-2015 年度評議員選挙スケジュールについて、審議の結果了承した。

3-2 2013 年度第 1 回幹事会

日時:2013 年 5 月 19 日(日)

場所:キャンパス・イノベーションセンター東京

(報告事項)

①総務担当幹事が会員動向(2013 年 5 月 1 日現在)について報告した。

正会員数 494 人 (昨年11月より+20人、入会35人、退会15人)

購読会員 33機関 36口 (昨年11月から変化なし)

賛助会員数 20社 25口 (昨年11月から変化なし)

②齋藤会長が2013-2015年度評議員選挙結果について報告した。

会長 齋藤雅典

副会長 相野公孝

評議員 浅川 晋、有江 力、太田 寛行、兼松 聡子、近藤 則夫、境 雅夫、坂本 一憲、宍戸 雅宏、妹尾

啓史、染谷 孝、對馬 誠也、豊田 剛己、早津 雅仁、藤井 毅、古屋 廣光、南澤 究、宮下 清貴、村上

弘治、横山 和平、横山 正

任期 2013 年 6 月～2015 年 5 月

③会計担当幹事が 2012 年度会計報告及び会計監査の結果について報告した。

④編集委員長が土と微生物誌の投稿状況について報告した。

⑤有江大会実行委員長が 2013 年度大会準備状況について報告した。

⑥日本農学会運営委員が日本農学会運営委員会について報告した。

⑦日本学術会議等連絡委員が日本学術会議関連について報告した。

4. 会計関係報告

4-1 2012 年度会計報告 別紙1参照

4-2 会計監査報告 別紙2参照

2013 年 5 月 16 日、門馬法明、柳井洋介両氏による会計監査が行われ、支出収入に誤りのないことが確認された。

2013 年度事業計画

1. 2013 年度事業計画案

1-1 2013 年度大会(東京農工大学)を開催する。

1-2 会誌「土と微生物」を発行する。

1-3 2014 年度 60 周年記念大会を、日本微生物生態学会、環境バイオテクノロジー学会との合同大会として開催するための準備を進める。別紙3参照

2. 2013 年度予算案 別紙 4 参照

別紙 1

日本土壌微生物学会 2012年度 会計報告

(1) 2012年度収入の部

項 目	予算額	決算額	増減(決算-予算)
前年度繰越金	4,574,355	4,574,355	0
正会員費	2,300,000	2,415,000	115,000
購読会員費	216,000	204,000	-12,000
賛助会員費	240,000	230,000	-10,000
M&E誌代金	240,000	240,000	0
大会運営費返金	300,000	596,802	296,802
雑収入	30,000	210,318	180,318
合計(単年度収入分)	3,326,000	3,896,120	570,120
合計(繰越金を含む)	7,900,355	8,470,475	570,120

(2) 2012年度支出の部

項 目	予算額	決算額	増減(決算-予算)
会誌刊行費	1,400,000	1,298,430	-101,570
大会運営費	300,000	300,000	0
日本農学会分担金	60,000	56,350	-3,650
学術シンポ等補助	50,000	0	-50,000
M&E誌印刷・発送手数料	250,000	241,164	-8,836
M&E誌共同編集・出版費	200,000	0	-200,000
公開シンポジウム・出前授業経費	30,000	30,000	0
事務費			
事務管理費	200,000	169,263	-30,737
旅費交通費	200,000	217,280	17,280
会議費	70,000	60,222	-9,778
通信郵送費	210,000	103,845	-106,155
文房具費	15,000	6,913	-8,087
諸印刷費	280,000	207,287	-72,713
雑費	50,000	38,280	-11,720
小計(単年度支出分)	3,315,000	2,729,034	-585,966
小計(次年度繰越金)	4,585,355	5,741,441	1,156,086
合計(繰越金を含む)	7,900,355	8,470,475	570,120

(3) 財産目録 (2013年3月31日現在)

項 目	金 額
現金	3,529
郵便振替口座	411,000
郵貯銀行通常貯金	4,864,938
常陽銀行普通預金	461,974
財産合計	5,741,441

(4) 備品目録 (2013年3月31日現在)

項 目
ノートパソコン
プリンタ
会員管理ソフト


(5) 雑収入内訳 (参考)

項目	2011年度	2012年度
利息	632	588
バックナンバー、CD-ROM	99,350	25,020
著作権料	22,724	47,894
印税	4,225	136,816
合計	126,931	210,318


2012年度 会計監査報告

本日、金銭、出納簿、預金通帳および各種領収書について詳細に監査した結果、各帳簿、領収書ともに極めて整然としており、支出収入に誤りのなかったことを報告いたします。

日本土壤微生物学会会計監査委員

氏名 柳井 洋介 

平成 25 年 5 月 16 日

氏名 門馬 法明 

平成 25 年 5 月 16 日

2014年度大会（60周年記念大会）開催案：

2014年度大会を、微生物生態学会、環境バイオテクノロジー学会との合同大会とし、菌学会の共催を得て、開催する。なお、次期大会は、本会の前身である土壌微生物懇話会が発足して以来60年目の節目となる記念大会でもある。

1. 経緯

2012年

齋藤会長が会誌巻頭言で将来の合同大会の可能性について言及。

2013年

2月 南澤微生物生態学会会長より齋藤会長・相野副会長に合同大会開催の打診。

4月18日 土壌微生物学会（齋藤）、微生物生態学会（南澤）、環境バイオテクノロジー学会（遠藤副会長）が合同大会の開催可能性について検討した。本学会としては、2014年は、6月に植物病理学会大会（札幌）、World Congress of Soil Science（韓国済州島）の開催が予定されており、例年の5-6月に本学会大会を開催することが難しい状況にあり、2014年秋開催を検討せざるを得ない状況にあった。2014年秋開催であれば、合同大会開催の意義は大きいと判断し、開催に向けて準備を進めることとした。

5月12日 3学会および菌学会の関係者により合同大会開催検討会議が開催され、以下の案がまとめられた。各学会へ持ち帰り、承認が得られた段階で、準備委員会を発足させ、具体的な準備を開始する。

2. 合同大会開催案

1) 合同大会趣旨：

微生物分野の学会は多数に細分化されており、分野間および学会間の交流が少ない。このことが、我国の（環境）微生物学研究の発展および情報発信を弱めている。また、各学会の会員数は伸び悩んでいる。新学術領域研究などの大型Projectに微生物の課題はほとんどない。複数の微生物関連学会に入会している会員の一部の多忙化が起きていると同時に、学生院生がどの学会で発表するか迷う状況がある。

そこで、土壌・水圏・工学等の分野で環境微生物研究を行っている3学会が年次大会を合同で開催し、従来の専門の枠を越えた研究交流を通して、それぞれの学会における研究活動のさらなる発展を目指す。

- ① 微生物学は分野横断的な学術領域であり、関連学会との緊密な交流により研究の活性化と情報発信（アウトリーチ活動など）が可能となる。
- ② 学生院生や若手が幅広い学会に出席し、勉強する機会を提供する。
- ③ 対外的に環境に関わる微生物研究の重要性をアピールできる。
- ④ 新規Open Access Journalの共同編集発行等の情報発信の基盤となる。

*土壌微生物学会としての意義と対応：

- ① 60周年記念シンポジウムを関連する微生物研究者の参集の下で開催することができる（本学会の存在意義を発信できる）。
- ② 学際的な関連研究情報の収集のよい機会となる。
- ③ 農業現場に近い公的研究機関・民間企業等の研究者が参加しやすい条件整備が必要である。

2) 開催形態・運営形態

- 各学会の事情を勘案し、柔軟に開催形態・運営形態を決めていく。

- 今回合同大会に合流はできないが、シンポジウム共催や会員としての参加の相互乗り入れを申し出ている日本菌学会（奥田会長）も含め4学会の担当で開催準備を進める。
- 合同大会の開催は、当面2014年度のみであり、今後について、2-3年毎の開催の可能性も含めてあらためて検討する。
- 学会大会開催時にはシンポジウムやアウトリーチ活動を共同で実施する
- 開催期間は、通常の微生物生態学会日程の4日（編集委員会、評議員会、若手の会も含めて）に基づき、一案として以下のような概略の枠組みを作った。
- 参加者予想数：700-800名（各学会の通常参加者数の単純合計+相乗効果）
- 合同大会準備委員（案）（敬称略）○：現地実行委員長（案）
 土壌微生物学会：早津（農環研）、宍戸（千葉大）、齋藤
 環境バイオテクノロジー学会：○金原（静岡大）、片山（農工大）、遠藤（東北学院大）
 微生物生態学会：春田（首都大）、常田（早稲田大）、南澤
 菌学会：服部力（森林総研）

3) 開催要領（案）

名称：環境微生物系学会合同大会（案）

*名称についてはもっと良い案があれば提案して欲しい。

主催：日本土壌微生物学会、日本微生物生態学会、環境バイオテクノロジー学会

共催：日本菌学会、（その他の微生物関連学会へ打診）

期日：2014年10月21日(火)～24日(金)

場所：浜松アクトシティ コンgressセンター

	午前	昼休み	午後	夜
2014/10/21	評議員会、編集委員会、若手の会等（微生物生態学会）			
2014/10/22	口頭発表	総会等	口頭発表	ポスター ミキサー
2014/10/23	口頭発表		ポスター	基調講演等 懇親会
2014/10/24	口頭発表		シンポジウム	

シンポジウム：土微学会60周年記念シンポジウム、各学会企画シンポジウム

一般口頭発表：100人以上の会場を5会場（10人x5会場x3日間=150名）

ポスター発表：イベント用会場 200件以上可能

4) スケジュール（2013年）：

4月11日：微生物生態学会拡大事務局会議

5月30日-6月1日：環境バイオテクノロジー学会大会

6月15日：微生物生態学会評議員会

6月20-21日：土壌微生物学会大会、評議員会

各学会で2014年の合同大会開催の承認を得て、準備委員会を正式に発足させる。

（参考）

複数学会による合同大会開催例：農業環境工学関連学会合同大会、応用動物昆虫学会・昆虫学会合同大会、地球惑星科学連合大会、等

日本土壌微生物学会 2013年度 予算案

(1) 2013年度収入の部

項 目		備考
前年度繰越金	5,741,441	
正会員費	2,400,000	480人*5,000円
購読会員費	216,000	33機関36口*6,000円
賛助会員費	250,000	20社25口*10,000円
M&E誌代金	155,000	31件*5,000円
大会運営費返金	300,000	
雑収入	30,000	
小計 (単年度収入分)	3,351,000	
合計 (繰越金を含む)	9,092,441	

(2) 2013年度支出の部

項 目		備考
会誌刊行費	1,450,000	No.1実費およびNo.2見積りにより増額
大会運営費	300,000	従来どおり計上
日本農学会分担金	60,000	前年度どおり
学術シンポ等補助	50,000	前年度実績なし、本年度未定だが、前年度どおり計上
M&E誌印刷・発送手数料	250,000	前年度どおり
M&E誌共同編集・出版費	400,000	前年度未払い分+本年度分
公開シンポジウム・出前授業経費	30,000	市民公開講演会非会員講演者2名、中高生ワークショップ経費
事務費		
事務管理費	50,000	2012年度予算比25%
旅費交通費	300,000	2014年度合同大会開催検討連絡会議等含む
会議費	40,000	幹事会、評議員会等
通信郵送費	170,000	2010年度と同額
文房具費	15,000	前年度どおり
諸印刷費	280,000	前年度どおり
雑費	50,000	前年度どおり
小計 (単年度支出分)	3,445,000	
小計 (次年度繰越金)	5,647,441	
合計 (繰越金を含む)	9,092,441	

日本土壤微生物学会役員

会 長 齋藤雅典

副 会 長 相野公孝

評 議 員 浅川 晋、有江 力、太田寛行、兼松聡子、近藤則夫、境 雅夫、坂本一憲、宍戸雅宏、
妹尾啓史、染谷 孝、對馬誠也、豊田剛己、早津雅仁、藤井 毅、古屋廣光、南澤 究、
宮下清貴、村上弘治、横山和平、横山 正

事 務 局

総 務 橋本知義、唐澤敏彦、田澤純子、徳田進一

会 計 長岡一成

企 画 仲川晃生、紀岡雄三、齋藤明広、横山とも子

土と微生物編集委員

委 員 長 豊田剛己

委 員 浦嶋泰文、近藤則夫、染谷信孝、吉川正巳

M&E 誌編集委員

Senior Editors

豊田剛己、早津雅仁

Associate Editors

太田寛行、久我ゆかり、齋藤雅典、境 雅夫、宍戸雅宏、信濃卓郎、妹尾啓史、
西山雅也、古屋廣光、南澤 究、村上弘治、村瀬 潤

会 計 監 査 門馬法明、柳井洋介

教 育 委 員

委 員 長 相野公孝

委 員 清水将文、渡邊健史

日本農学賞推薦委員

委 員 長 齋藤雅典

委 員 雨宮良幹、犬伏和之、土屋健一

日本農学会運営委員

坂本一憲

日本微生物生態学会連絡委員

早津雅仁

学術会議等連絡委員

犬伏和之

任 期

会長・副会長・評議員

2013 年 6 月～2015 年 5 月

事務局・編集委員会・会計監査・その他委員

2012 年 1 月～2013 年 12 月